

職業能力開発
の
現場から

港ヨコハマで 港湾・物流業界の担い手を養成



港湾職業能力開発短期大学校横浜校

設置・運営●独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
所在地●神奈川県横浜市中区本牧ふ頭1番地
訓練コース●港湾流通科・物流情報科・港湾ロジスティクス科
訓練期間●2年

港湾職業能力開発短期大学校横浜校（以下、港湾横浜校）は、全国に2校ある港湾職業能力開発短期大学校のうちの一校（もう一校は神戸校）である。「港湾カレッジ」の愛称で呼ばれ、港湾・物流業界特化型の職業能力開発施設である。

○基本理念

港湾横浜校は、神奈川県総合高等職業訓練校横浜港湾労働分校として昭和47年4月に開校。設立以来40年間で1400名以上の卒業生を送り出し、貿易立国日本を支えてきた。

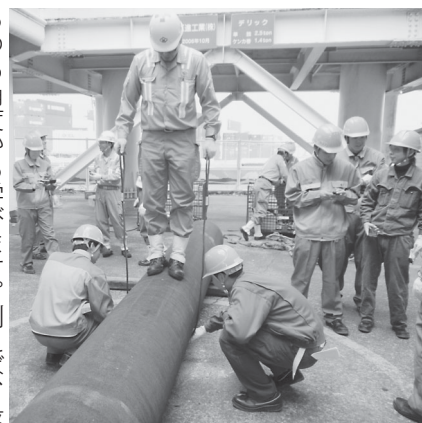
大江康二学務課長は、同校の理念について「本校は、機構・関係行政機関・業界団体が三位一体となり、港湾・物流産業における技術革新に的確に対応できる高度な知識と技能・技術を兼ね備えた、物流管理技術者の育成を教育訓練の基本理念とし、業界の発展に寄与することを目的としています」と話す。

卒業生の多くは、地元横浜を中心に日本各地の港湾・物流企業に就職し、グローバル化時代の今日、海外の営業拠点にも派遣され、海陸の内外物流と海外貿易の基盤人材として活躍している。

○実践に即した教育・訓練、最新鋭の設備環境

港湾横浜校は、国際貿易港横浜港の本牧ふ頭に位置し、最高の教育・訓練環境にあり、学生は港湾物流の最前線の動きを直接目にする事ができる。訓練課程は3科設置されている。それぞれの科の特色についてうかがった。

物流情報科の波多江茂樹教授は「本科は『物流管理』『自動化技術』『情報技術』を3本の柱として、『物流』をあら



らゆる角度から学びます。例えば、最新鋭の物流システムのコンピュータソフトを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるよう教育しています」と語る。

港湾流通科の特徴として、小田切稔教授は「本科は『港湾・貿易実務』『荷役技術』『情報処理』を3つの柱として理論と実践のカリキュラムが構成されています。例えば、フォークリフトの技能講習や玉掛け作業、移動式クレーンの操作を授業に取り入れて、国家資格が取れるように教育しています。また、全国でも数台しかない、陸から船へ積載貨物を積み替える荷役作業に用いられる巨大な揚貨装置を使用して、実践学習をしています」

港湾ロジスティクス科は日本版デュアルシステムと呼ばれる訓練で、「港湾流通・ロジスティクス・荷役・通関などの教科を座学で学ぶだけでなく、港湾企業における企業内実習、いわゆるインターンシップ（1カ月）・就労型実習（3〜6カ月）により、港湾物流の実務を学び、企業ニーズに即応した実践力を身につけます」（小田切教授）

○港湾カレッジの今後

近年、我が国の貿易港はその地位が

低下している。国は京浜港と阪神港の2港を、国際拠点港の再興を目指した「国際コンテナ戦略港湾」に指定し、集中的に施設整備を進めている。「産業のグローバル化を物流面から支えていくには、多くの優秀な人材を育成し、送り出さなければなりません。本港湾カレッジへの港湾業界・物流業界からの期待をひしひしと感じています」（波多江教授）

○受験生へのメッセージ

学生の就職は、実学融合による教育訓練と専門アドバイザーによるキャリアアカウンセリング等の手厚いサポート、また港湾・物流業界で活躍している多数のOBの強力なバックアップにより、常に100%近くを維持している。

最後に大江課長は、「本校の学校見学に来られる生徒さんを屋上にご案内すると、クレーンやコンテナトラックが所狭しと動き回る横浜港が一望できる光景に感嘆します。そして、絶対、港湾・物流産業の第一線で活躍したいと思うようです。日本全国から、明確な目的意識をもつ、大勢の情熱ある若者をお待ちしています」と結ばれた。

